



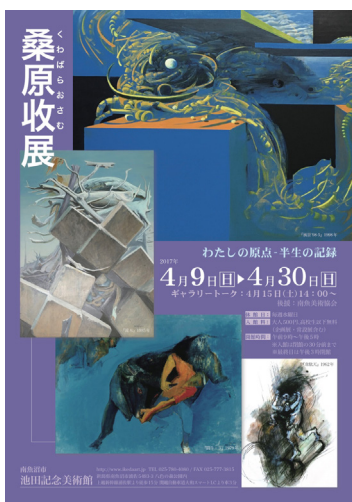
春は別れと出会い、環境の変化など、期待と不安の季節です。でも、春のおひさまは暖かく心地よい日差しで、そんな不安を取り除いてくれるようですね。

☆ ☆ ☆ ☆

◆桑原収展

4月9日から「桑原収展 わたしの原点―半生の記録」を開催しています。南魚沼市在住の桑原収さんは一陽会会員で、一陽展や芸展などの展覧会を中心に作品を発表しています。2004年から2009年まで南魚美術協会長を務めたこともあり、南魚沼の美術界を牽引してこられました。

桑原さんが教員として南魚沼に赴任してこられた頃は、県展の誘致活動や郡展（今の南魚展）の開始、南魚美術協会の新設など、南魚の美術界に熱気があふれる時代でした。今回の展覧会では、桑原さんが歩んできた「半生の記録」として、当時の油彩画や、学生時代のスケッチなどを展示中です。『闘牛』



「桑原収展」は4月30日まで開催しております

◆いらなと言われていた大事なものの

食の世界では、今まで捨てられていたものが栄養素として有効なものと言われることがある。リンゴなどの果物の皮はむいて捨てていたが、今は皮ごと食べた方が良くいと言われる。白米と玄米もそうだ。

人間の体もしかり。TVの健康番組で、盲腸になったときに摘出する虫垂は、実は大事な役割があると言っていた。最近の研究では、摘出手術後1年半〜3年半の間は大腸がんになる確率が約2倍強に増えるそうだ。虫垂にはたくさんの免疫細胞があり、それを取り除いてしまうリスクといえる。術後3年半を超えると、手術をしない人と変わらなくなるそうだ。昔は盲腸にならなくても摘出して問題ないとまで言われていた気がする。

そういうえば、歯医者にかかったときに、自分としては特に問題なかった親知らずを必要のない歯と言われ、抜歯したのを思い出した。その後、特に不具合もないため問題はないのだが、60歳を過ぎてから、虫歯でもないのにわざわざ抜かなくてもよかったかなと思ってしまう。

◆春の出会い

厳しい冬の寒さに耐えながら、ぽかぽか陽

気の春の訪れを心待ちにしていました。雪国の春は動物や植物が一斉に動き始めます。

そして、春と言えば、旅立ちや、新しい出会いの季節です。私にも大変珍しい出会いがありました。

先日、お伺いしたお宅で、小さな可愛いトラ柄の鳥の赤ちゃんを見せてもらったときです。驚いたことに、スーパーで買ったウズラの卵から生まれたヒナでした。37度の電気アンカで21日間温め続けて、22日目で孵化したそうです。ちょうどその日に、奇跡のような出会いをすることができました。

大切に手のひらにのせ、少し震える小鳥を見つめる奥さんの優しい眼差しに、周りほほんわかと温かい空気に包まれていました。一パックの卵から唯一孵った一羽の小さな体から、強い生命力を感じた春のひと時でした。

(佐藤良子)

◆奇跡の勝利

年度末に部活の1年生大会が行われました。決して強いチームではない某中学校の女子バスケットです。ミニバスケットチームの小学生も含め試合に臨みました。ミニバスのコートにもご協力いただいて合同練習もしました。ほとんど素人のバスケット。この1年は負けてばかりで、逆にミニバスの足を引っ張らないようにと思っていました。スタメンも経験者とミニバスなのだろうと半ば諦めていました。

1試合目、強豪校との試合、やはり残念な結果に。2試合目、なんと先制点を娘たちの学校が！それも点数を入れたのが私の娘！奇跡が起きました。そして、そのまま点数を伸ばし、な、な、なんと、とうとう、やっと初勝利をあげることができました。娘は涙が出たそうです。3試合目も勝つことができたので、私も思わず涙が。みんなで勝ち取った勝利、自信に繋がったと思います。

しかし、その奇跡をこの目で観ることがで

きなかった私でした。(山口加奈子)

◆春の山菜採りが待ち遠しい

早春の朝、台所の窓から裏山をのぞくと、東向きの斜面に雪崩の跡が見えました。茶色の地肌と雪の塊が朝日に光っています。地元の人に聞くと、そのあたりは日当たりがいいせいか、ゼンマイがよく採れるとのこと。いままです素通りしていた場所だったので、さっそく、この春の山歩きコースに追加しました。家の後ろでは屋根から滑り落ちて積もった雪が、まだ2メートル以上も山になって残っています。といっても、田んぼの畦が顔を出し始めたので、そろそろフキノトウの収穫です。宴席では何度か賞味しましたが、やはり自分で採ったものを味わいたいのです……。つい先日、知り合いからアサツキをいただきました。刻んでポン酢と合わせると晩酌のお供に最適。蕎麦のツユにも添えてみました。長い冬がようやく終わって、待ちに待った山菜採りの季節がやってきます。皆さん、準備はいいですか？ 楽しみです。

コゴミはあの川の上流、木の芽はあそこの平場、根曲がり竹は近所の山、コシアブラとアンニンゴは家の裏……休日の午後、仕事のことは忘れ、よしなしごとを空想しているうちに、日が暮れてしまいました。(高橋良一)



桑原収「屋下がり」

無駄なことの蓄積

関根 哲男

若葉の候、池田記念美術館で個展を開催させていただくことになりました。

私はこれまで、その時々思いつきや欲求から、様々な物を作り続けてきました。

例えば、ゴムの細片をパネルに田植えのようにギツリ植え込んだり、布の小片の張り重ねをバーナーで焼いたりして、作業の集積を現出しています。また、手製の真つ赤な位牌を2000個画廊の床に並べたり、丸太材の巨大な赤ふんどし像を川沿いに立てたりもしました。最近、古ズボンに土を入れたものを300体地面に立て上部に雑草を繁茂させたり、様々な身近な物を使い、表現を続けています。そしてこれらを「原生」と称しています。

なぜこのような物を作るのかというと、役に立たないものを作りたいという欲求であり、やっていて面白からです。無駄で役に立たない作業を繰り返して、物と営為そのものからより「何か」を引っ張り出したいために作っています。



関根哲男「原生」

池田記念美術館 展覧会・イベント情報

■桑原収展 わたしの原点—半生の記録—

◎1階企画展示室、2階展示室Ⅰ ◎期間：4月9日(日)～4月30日(日)

南魚沼市在住の油彩画家・桑原収氏の個展を4月30日まで開催中です。桑原氏は一陽会会員、南魚美術協会顧問、当館アドバイザースタッフ。南魚展や一陽会展などを中心に作品を発表し、魚沼の美術界で中心的な役割を果たしています。現在は抽象画が中心ですが、過去の具象画シリーズと合わせて、画業の集大成となる展覧会です。主に1970年代後半に制作した『闘牛』シリーズ、1980年代後半に制作した『流木』シリーズなど、新潟大学教育学部美術科在籍中から教員時代までの作品を含め、約70点を展示します。

■ギャラリートーク 4月15日(土) 14:00～

■関根哲男展—原生—

◎1階企画展示室、2階展示室Ⅰ ◎期間：5月3日(水・祝)～6月12日(月)

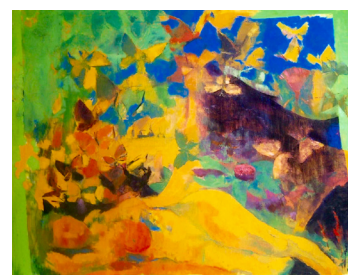
柏崎市在住の現代美術家・関根哲男氏の個展です。大地の芸術祭(妻有地域)や水と土の芸術祭(新潟市)にも出展した作品が高い評価を得て、注目を集める作家です。近年は「原生」というテーマで作品を発表しています。

■猪爪彦一展

◎1階企画展示室、2階展示室Ⅰ ◎期間：6月17日(土)～7月18日(火)

新潟市在住の油彩画家・猪爪彦一氏の個展です。行動美術協会会員、新潟県美術家連盟理事。1981年、行動美術展・行動美術賞受賞。84年、安田火災美術財団 奨励賞展 新作優秀賞受賞。行動美術展に出品するほか、個展を中心に活動、詩的で幻想的な作風で、県内外を問わずファンが多い作家です。

南魚沼塩沢産コシヒカリ好評発売中…昨秋収穫の極上米！ ※詳細は美術館へ



桑原収「或る真夏の午後」



桑原収「闘牛・3」



関根哲男「原生」

◎美術館の音楽情報

■池田音楽クラブ「音を楽しむ集い」 ※参加無料です

4月23日(日) 14:00～ フォークソングの日

5月14日(日) 11:30～ フルート・ピアノ

5月28日(日) 14:00～ フォークソングの日

年間パスポートがお得です！

料金3,000円で発行日から1年間有効。初回申込特典①入館招待券3枚、②イケビカフェで利用できるコーヒチケット2枚をプレゼント。

池田記念美術館 南魚沼市浦佐5493-3 (八色の森公園内)
TEL 025-780-4080 / FAX 025-777-3815
【開館時間】9:00～17:00 (入館受付は16:30まで)
【入館料】一般 500円 高校生以下無料
【ホームページ】<http://www.ikedart.jp>

【4月の休館日】

※水曜日(5日、12日、19日、26日)

※5月1日(月)、2日(火)は展示替えのため休館

※5月3日(水・祝)は開館